

第14期 事業報告書

2005年4月1日～2006年3月31日



GREEN HOSPITAL SUPPLY

グリーンホスピタルサプライ株式会社

証券コード：3360



株主の皆様へ



代表取締役社長
古川 國久

グリーンホスピタルサプライの現状
そしてこれからの経営戦略について
ご説明いたします。

トータルパックシステム事業

トータルソリューション提案による
医療機関の建設・設備工事、
機器・設備導入のコンサルティング及び
販売・リース

ヘルスケア事業

調剤薬局部門

得意先の門前に調剤薬局を設置し、
医薬分業に対応

ライフケア部門

得意先との共同出資により近隣エリアで
介護付有料老人ホームを展開

メディカルサプライ事業

トータルパックシステム事業で獲得した
得意先に対して、日常の診療材料・消耗品を
販売

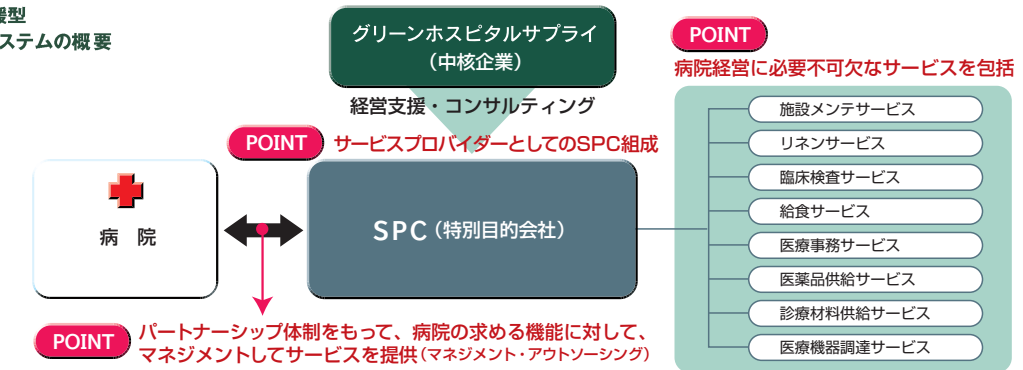
グリーンホスピタルサプライ株式会社は、「医療」「保健」「福祉」の分野に特化し、「トータルパックシステム事業」を事業全体の柱の1つに、「メディカルサプライ事業」「ヘルスケア事業」の3つの事業を展開している会社であります。また当社では、医療機関を「得意先」とすると同時に「事業パートナー」と捉え、各事業ごとに「ひとつの病院」へそれぞれのサービスを提供す

ることで、病院との信頼関係を最大化していく事業モデルを展開しております。

市場環境が激しく変化する中、当期においても計画以上の業績を達成することができました。株主の皆様
に当社に対してのご理解をより深めていただけるよう、
これより、グリーンホスピタルサプライの現状およびこ
れからの経営戦略についてご説明いたします。

トータルパックシステム事業の特徴

経営支援型 SPCシステムの概要



この事業システムではSPC(Special Purpose Company/特別目的会社)は、資金調達に加えて、サービスプロバイダー機能を果たすものとして設立。当SPCは、経営として「実際に業務に従事する「人」の面」も含めたサービスの両方において、従来よりも効率的・質の向上を実現する医療環境を病院に提供してまいります。また当社は、当事業システムの中核企業として病院への経営支援とともにサービスプロバイダーコンサルティングを実践してまいります。

【トータルパックシステム事業】経営支援型SPCシステムの展開

病院運営に関わる「トータルサービスプロバイダー」機能の強化・拡大へ

昨今、まさに国をあげての医療制度の改変が進み、病院の経営そのものが抱える構造的な問題の複雑化、さらにはそれらに対するトータル・ソリューションニーズが一層強くなってまいりました。このようなニーズに的確にお応えすべく、トータルパックシステム事業ではこれまで培ってきた業界最高峰のコンサルティング・ソリューション能力に加えて、「トータルサービスプロバイダー機能を強化した『経営支援型SPCシステム』の展開」、という新たな事業ステージへの挑戦を行なっております。

今後は、経営支援型SPCシステムに必要なサービスプロバイダー機能を持った人材の集積とともに関連事業ノウハウの取得を進めてゆき、次世代に求められるであろうビジネスモデルの構築に努めてまいります。

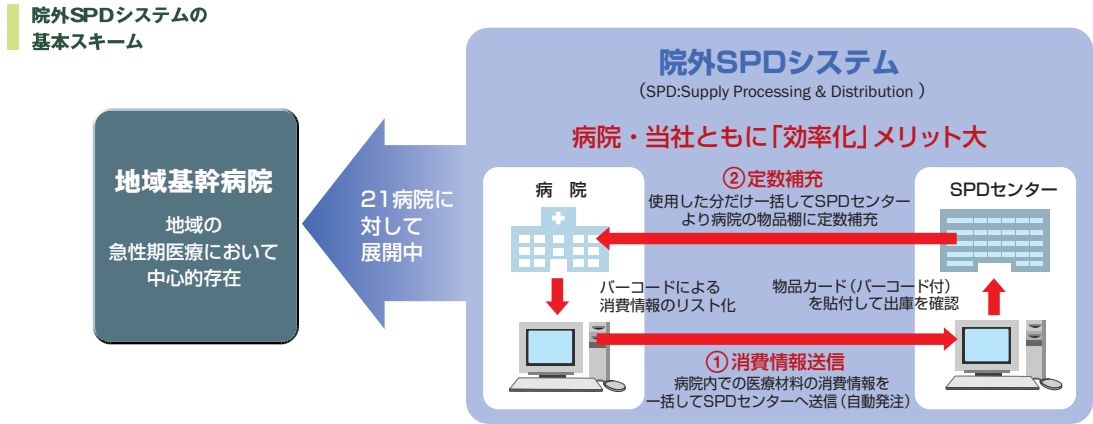
豊富な病院経営ノウハウに金融技術を加味した「病院再生事業」に着手

病院は地域社会にとって公器であり、その存在は地域にとって医療だけでなく雇用・消費の上でもかけがえのないものです。このような観点の下、当社は、これまでの豊富な病院M&Aノウハウに新たな金融技術を加味した、病院再生事業を展開しております。

この事業では、当社が病院に対してフィナンシャルアドバイザーとして債権の集約を行いながら、同時に債権の健全化に必要な新規資金調達をサポートするための仕組みを構築し、資金の健全化を図ります。また対象病院のマネジメントに問題が見受けられる際は、当社の持つM&Aノウハウを活用して病院経営を立て直してまいります。当期では大型2案件が完了し、現在もなお数件が仕掛り中であります。

再生後の病院の発展は、当社の将来にわたるビジネスステージにつながるものとも言え、さらなる商流の拡大を図ってまいります。

メディカルサプライ事業の特徴



【メディカルサプライ事業】進化を続ける当社の院外SPDシステム

地域基幹病院を中心とした医療機関に対し、「院外SPDシステム」による一括供給販売

SPD (Supply Processing & Distribution) とは、物品の供給、在庫、加工などの物流管理を中央化および外注化することにより、医療現場の物品を柔軟かつ円滑に管理しようとする方法のことです。同事業では、このシステムを通じて医療機関が日常使用する診療材料を供給することにより、病院運営業務の負担を低減して、現場スタッフが医療に集中できる環境作りに努めております。

同事業の特徴として、300床前後の大病院をターゲットとしている点、1施設当たりの売上高が高い（＝業務効率の高い）層の病院をターゲットとしている点などが挙げられます。

院外SPDシステムの優れた機能と、このような戦略的マーケティングの相乗効果により、順調に事業を拡大することができております。

次世代型院外SPDシステムの展開・組織力の強化により、さらなる事業の拡大へ

国公立・民間双方での病院のコスト削減意識の高まり、大学病院の独立行政法人化など、ビジネスチャンスは広がりを見せております。このような商機を積極的に取り込むべく、同事業では主に2つの側面から事業強化を図っております。

1つが、次世代型院外SPDシステムの展開であります。次世代型院外SPDシステムでは電子カルテに直結してオンタイムで使用した材料を即時分析することができます。導入側の病院のIT環境のレベルと歩調を合わせながら、随時積極的に導入していく方針であります。もう1つが、組織力の強化であります。2006年4月より組織体制を、各診療科目に専門特化した集団である「医療機械部」、院外SPDシステムに特化した「診療材料部」に再構築し、より専門的・効率的に活動する体制を整えました。

武器となるシステムと実行部隊の専門性の向上に相乗的に取り組み、一層の拡販を目指してまいります。

ヘルスケア事業の特徴

最近の主な
介護付有料老人ホーム



「エスベラル城東」外観



「エスベラル城東」室内



「守口佐太有料老人ホームラガール」完成予想図



「守口佐太有料老人ホームラガール」一人居室完成予想図

【ヘルスケア事業】医療と介護のコラボレーションを目指して

医療／保健／福祉分野のノウハウ・実績を活かし、調剤薬局や介護付有料老人ホームを展開

病院や介護福祉施設などの経営コンサルティングの経験を活かし、調剤薬局（調剤薬局部門）・介護付有料老人ホーム（ライフケア部門）を運営しております。M&Aの展開等により順調に推移する調剤薬局部門とともに、特に近年当社が注力しているのが、ライフケア部門による介護付有料老人ホームの展開であります。

ここ2年ほどで急速に介護付有料老人ホーム市場は拡大し、2006年4月からは各市町村単位で総量規制が設けられるなど、市場は急激に変化しております。このような環境変化を早期より予見していた当社では、「医療と介護のコラボレーション」という独自路線・差別化戦略を推進してまいりました。

おかげさまで持ちまして第一号施設の「ウエルハウス尼崎」は当月初より満室稼働で推移し、第二号施設の「エスベラル城東」も順調に入居者数を伸ばしてきております。さらに飛躍を目指し、今後はその第二ステップとして、千里中央地区再整備事業の「ウエルハウス千里中央（仮称）」に代表されるよ

うな、誰もが安心して住み続けられる「街づくり」と「医療と介護の直結型」をスキームとした事業展開に着手していく計画であります。

医療機関とのパートナーシップを最大限に発揮しながら、また一方ではお米は産地直送のコシヒカリを使用するなど、それぞれの施設の厨房で食事を作って常に暖かい食事を提供していくという、日常へのこだわりも大切にしながら、これからも安心に包まれた住まいの創造に努めてまいります。

●介護付有料老人ホーム一覧（計画を含む）

施設名（HPアドレス）	運営担当	定員	オープン日
ウエルハウス尼崎 (http://www.ghsinc.co.jp/anai/)	ユナイトライフ（株）	146名	2004年4月
エスベラル城東 (http://www.ghsinc.co.jp/esuperal/)	ホロニックライフ（株）	308名	2005年6月
ライフコート春秋 (http://www.ghsinc.co.jp/lifecourt/)	春秋ライフ（株）	162名	2006年9月
守口佐太有料老人ホームラガール (http://www.ghs-inc.co.jp/lagae/)	弘道会ライフ（株）	189名	2006年10月
カリエール茨木（仮称）	あいのライフ（株）	203名	2007年春開設予定
アクアマリーン西宮浜（仮称）	ユナイトライフ（株）	100名	2007年春開設予定
ウエルハウス千里中央（仮称）	千里中央地区再整備事業	200名	2008年春開設予定
合 計		1,308名	

今後の成長ビジョン



2012年度連結売上高2,000億円の達成に向けて

さらなる成長・進化へ向け一層の事業基盤の強化へ

トータルバックシステム事業の経営支援型SPCシステムへの進化、メディカルサプライ事業における拡販戦略的的確な遂行、ヘルスケア事業の事業3本目の柱としての順調な成長・・・・・・中期目標である2012年度連結売上高2,000億円達成へ向け、当社は着実な成果を伴って企業成長を遂げてまいりました。この歩みを緩めることなく、今後においても確固たる成長を目指し、2007年3月期では3つのポイントをもって事業基盤の強化を図ってまいります。

1点目が、当社ビジネス(=商い)の根幹をなす仕入機能の強化であります。2006年4月に「業務本部」を新設し、その中に仕入機能を組み入れることといたしました。これにより従来にも増して一層の経営・事業効率を図ってまいります。2点目が、「関連会社管理部門」の新設であります。グループシナジーを最大限に創出していくために、等しくすべてのグループ会社が同じベクトル上

にあることが重要と考えております。また3点目として、情報の即時共有・付加価値化を目指し、IT環境の再構築に着手してまいります。

このような事業基盤の強化策の遂行とともに、特にこの1年間においては社員一人ひとりのスキルアップに注力してまいります。創業来のスタッフと若手スタッフの融合・成長、そして事業基盤の強化により、中期目標である2012年度連結売上高2,000億円へ向け、より着実な歩みを進めることができるものと考えております。

「S.H.I.P. 理念」の追求・実践

グループ理念

し せい そく だつ
至誠惻怛というSHIPからS.H.I.Pへ
Sincere+Humanity+Innovation+PartnerSHIP
(誠実な心) (「情」の心) (革新者の気概) (パートナーシップ)

グループアイデンティティ

地球と地域にやさしい
「生命を守る人の環境づくり」
を目指して

「地球と地域にやさしい生命を守る人の環境づくり」のスペシャリストとして

永遠の経営テーマ「S.H.I.P. 理念」の追求・実践

これまで様々な角度から当社の経営戦略などについてご説明してまいりましたが、それらすべての背景・根底には1つの共通項として、当社グループのS.H.I.P.理念およびグループアイデンティティが常に流れております。即ち、当社が取り組む日々のあらゆる事業活動は、すべてこのS.H.I.P.理念およびグループアイデンティティに照らし合わせ、それに少しでも反するものは一切行うことはございません。

創業来、私たちはMy CompanyではなくYour Companyを目指し、社員全員で共有する理念として「S.H.I.P. 理念」を掲げてまいりました。この「S.H.I.P. 理念」には、Sincere (誠実な心)、Humanity (「情」の心)、Innovation (革新者の気概)、Partnership (パートナーシップ) の頭文字と、いつまでも帆に風を受けて航海を続ける船(ship)でありたい、という気持ちを込めております。

おかげさまで持ちまして、会社そしてビジネスの底上げの要となる社員の面についても、単なるスキルアップにとどまることなく、この「S.H.I.P. 理念」にかなう人材を育成することができました。これからも当社グループは、地球と地域にやさしい「生命を守る人の環境づくり」を目指すYour Companyとして、株主の皆様とともに地域社会へ貢献し続ける企業でありたいと考えております。

介護付有料老人ホーム

「ライフコート春秋」 2006年9月
開設予定「守口佐太有料老人ホーム ラガール」 2006年10月
開設予定
をご紹介します。

ライフコート春秋

“健康・福祉・生活が三位一体を成す共生の街”である大阪府羽曳野市はびきの。そこに位置するのが、ここにご紹介する介護付有料老人ホーム「ライフコート春秋」です。自然豊かな12,000坪という雄大な敷地の一部に構えるライフコート春秋は、併設する保育所の園児と入居者の皆様とのふれあう環境づくりに加え、城山病院（仮称／2006年夏開院予定）や喫茶店、整骨院、歯科クリニック、薬局などが入るメディカルモールを隣接するなど、利用者の皆様に、心休まる空間と日常の利便性を同時に提供してまいります。

緑豊かな住環境と、24時間体制の万全のケア体制との共生を目指し、ライフコート春秋は「信頼」と「やすらぎ」を追求してまいります。



守口佐太有料老人ホーム ラガール

より健やかに、さらに豊かに。この「守口佐太有料老人ホーム ラガール」のキャッチフレーズは、単なるフレーズとしてではなく、これを利用者の皆様にお約束するものとして掲げたものであります。隣接する守口生野記念病院（2006年9月開院予定）とはデッキで直結し、連携体制をもって入居者の医療的処置や緊急時の対応を行います。また施設内には保育所を開設するほか、地域交流スペースを設け、講演会やイベント開催時には地域の方々にも開放する計画であります。

守口佐太有料老人ホーム ラガールは、高齢者・保育園児・地域住民・スタッフなど、あらゆる世代がふれあう環境づくり、さらには地域に繋がった充実のセカンドライフの提供を目指してまいります。

2006年4月に救急24時間対応可能な
「千里桃山台動物病院」を開院いたしました。

当社グループは、地球と地域にやさしい「生命を守る人の環境づくり」を目指して事業を展開しておりますが、「動物の生命を守る人＝獣医師」が抱える問題へソリューションを提供するべく、2006年4月12日、当社子会社であるグリーンアニマル（株）（gac）は「千里桃山台動物病院」を開院いたしました。

新生児の数よりもペットの数が多くなってきたとも言われる昨今、ペットは「伴侶動物」として、かけがえのない家族の一員として迎えられる時代となってまいりました。しかし一方、獣医療の現場では、専門医による低侵襲治療（＝動物たちに痛みが少ないやさしい治療）や高度医療の提供、充実した設備ニーズなどが顕在化してきておりますが、このようなニーズに対応できる動物病院は全国的にも大学付属病院程度しかない現状であり、結果専門医が育ちにくい環境にもありました。

このような時代背景や環境変化への充分な対応を目指し、千里桃山台動物病院は、「CT・MRI等の高度診断治療機器を一連のパッケージで整え、複数の専門医による低侵襲治療や高度医療を24時間体制で提供する国内初の都心型施設である」という大きな特徴を備えております。今や動物でも、心臓マヒや糖尿病など、人間と同レベルの疾病状況にあります。同動物病院では、人間と同じような検査そして治療を提供し、また、動物の健康管理を通じ動物および飼主様が満足してもらえる心のこもったサービスに努めております。



（千里桃山台動物病院のHPを開設しております）
<http://www.hs-gac.jp/>
是非一度、ご覧ください。

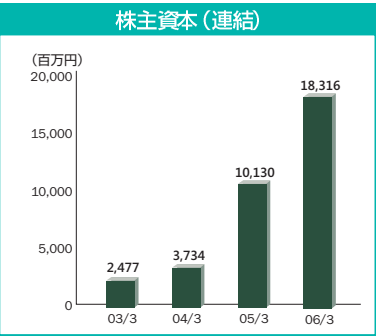
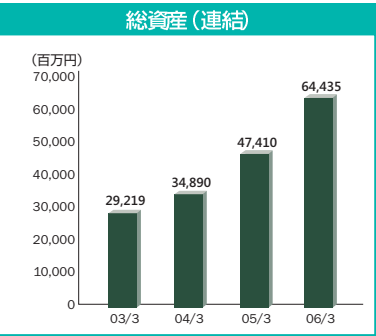
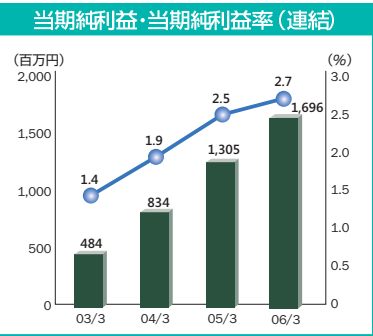
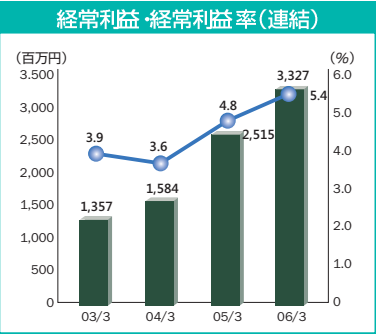
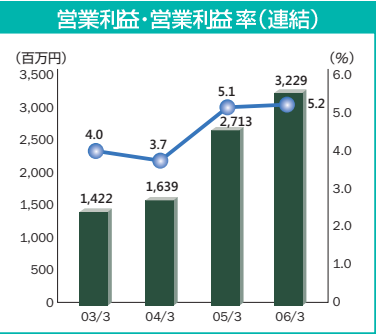
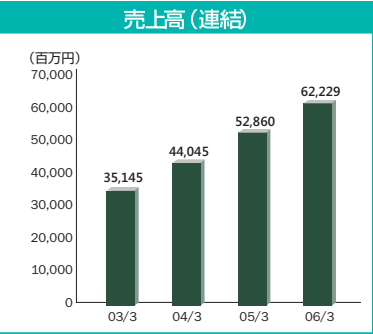


財務ハイライト

■ 主な経営指標の推移 (連結および単体)

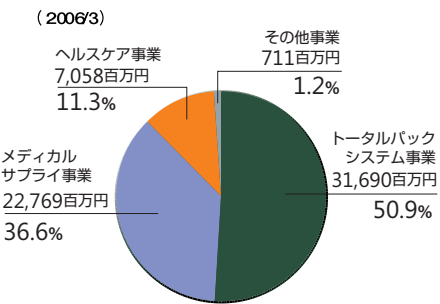
	単 体					連 結			
	2002/3	2003/3	2004/3	2005/3	2006/3	2003/3	2004/3	2005/3	2006/3
売上高	459	24,129	29,639	33,420	41,580	35,145	44,045	52,860	62,229
営業利益	125	924	1,252	1,517	2,740	1,422	1,639	2,713	3,229
経常利益	110	1,085	1,482	1,751	2,969	1,357	1,584	2,515	3,327
当期純利益	80	352	850	990	1,738	484	834	1,305	1,696
総資産	19,828	21,731	21,622	31,271	43,832	29,219	34,890	47,410	64,435
株主資本	2,287	2,898	4,158	10,238	18,423	2,477	3,734	10,130	18,316

注1) 2002年3月31日付で子会社との合併を行っております。 注2) 2002年3月期は決算期変更に伴い、11カ月の変則決算となっております。



事業別の概況

■ 事業別売上高 (連結) 構成比



■ 事業内容

トータルバックシステム事業

医療機関の新設移転・増改築及び医療機器購入等のニーズに対する総合的なサービスの提供

- 企画運営・医療設備コンサルティング
- 医療機器・医療設備等の販売及びリース
- 建設工事、不動産賃貸業務、その他
- 以上の業務の一括受注

メディカルサプライ事業

医療機関に対する診療材料・医療用消耗品等の販売

- ルート販売
- 院外SPDシステムによる一括供給販売
- 専門領域別の専門販売

ヘルスケア事業

「調剤薬局部門」と「ライフケア部門」等を展開

- **調剤薬局部門**
- 大規模病院周辺の門前薬局の運営
- **ライフケア部門**
- 介護付有料老人ホームの運営

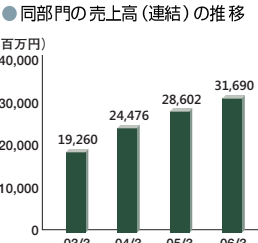
その他事業

理化学・環境機器等の販売
動物病院の運営

トータルバックシステム事業

トータルバックシステム事業はその事業内容の性格上、売上計上が下半期、特に第4四半期に集中する傾向にあります。当期においても同様で、上半期に比べ下半期に売上・利益ともに大きく偏重する結果となりました。また、前期より研究してまいりました金融技術を利用した病院再生ビジネスを上半期に1件受注し完了させるとともに、下半期に大型再生ビジネス1件に取り組み、これを期内に完了させることに成功いたしました。

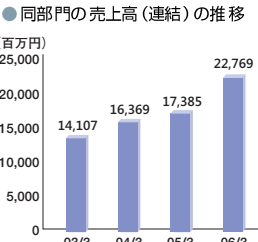
これらの結果、同事業の売上高は31,690百万円（前期比10.8%増）となりました。



メディカルサプライ事業

当期においては、大阪府下を中心とする地域限定戦略に基づき推進してまいりました院外SPDシステムによる民間大型病院等への販路拡大に注力し、順調にその成果を上げることができました。また、院外SPDシステム運営合理化によるコスト削減と利益率向上を引き続き図ったことにより、下半期にその効果が現れ、期初目標に近い営業利益を計上することができました。

これらの結果、同事業の売上高は22,769百万円（前期比31.0%増）となりました。

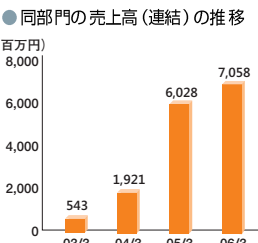


ヘルスケア事業

調剤薬局部門では、期初に経営効率化の一貫として(有)新世紀と(有)わかばの2法人を、(有)わかばを存続会社として合併するとともに、その後の業績も堅調に推移いたしました。

ライフケア部門では、介護付有料老人ホーム第1号施設となる「ウエルハウス尼崎」(ユナイトライフ(株)が運営)が期初より満室状況で運営し、計画通りの経常利益を計上するとともに、第2号施設「エスペラル城東」(ホロニックライフ(株)が運営)も2005年6月に開設し、順調に実績を重ねております。第3号施設「ライフコート春秋」(定員162人、春秋ライフ(株)が運営)、第4号施設「守口佐太有料老人ホームラガール」(定員189人、弘道会ライフ(株)が運営)も順調に工事が進み、2006年秋に開設の予定となっております。また、市町村による介護付有料老人ホーム新規開設の量的規制を踏まえ、新たな計画施設を前倒しで企画することとし、「街づくり」と「医療と介護の直結型」を基本コンセプトとした千里中央地区再整備事業への参画による「ウエルハウス千里中央(仮称)」(定員200人、2008年春開設予定)と、西宮マリナーパークシティの医療福祉ゾーンでの「アクアマリン西宮浜(仮称)」(定員100人、2007年春開設予定)の計画を確定させました。

これらの結果、同事業の売上高は7,058百万円(前期比17.1%増)となりました。



連結財務諸表

連結貸借対照表				(単位：百万円)			
	当 期 20 06年3月31 日現在	前 期 20 05年3月31 日現在	前期比 増減額		当 期 20 06年 3月31 日現在	前 期 20 05年3月31 日現在	前期比 増減額
【資産の部】				【負債の部】			
流動資産	39,547	31,840	7,707	流動負債	34,414	28,065	6,348
現金及び預金	10,654	10,726	△ 71	支払手形及び買掛金	25,569	22,450	3,118
受取手形及び売掛金	24,905	17,720	7,184	短期借入金	2,996	2,196	800
たな卸資産	2,938	1,996	942	一年以内返済予定長期借入金	971	917	53
短期貸付金	169	217	△ 47	未払法人税等	1,494	656	837
繰延税金資産	369	190	179	繰延税金負債	5	6	△ 1
その他	589	1,066	△ 476	賞与引当金	244	188	56
貸倒引当金	△ 79	△ 76	△ 3	その他	3,133	1,649	1,484
固定資産	24,887	15,569	9,318	固定負債	11,685	9,182	2,503
有形固定資産	16,425	10,571	5,854	社債	1,438	2,522	△ 1,084
建物及び構築物	4,857	1,675	3,181	長期借入金	8,890	5,594	3,295
機械装置及び運搬具	272	5	267	繰延税金負債	346	316	30
賃貸資産	2,050	1,478	571	退職給付引当金	86	69	17
土地	4,873	4,855	18	役員退職慰労引当金	41	37	4
賃貸土地	2,654	758	1,896	その他	882	643	239
建設仮勘定	1,614	1,714	△ 99	負債合計	46,099	37,247	8,852
その他	102	83	18				
無形固定資産	821	553	268	【少数株主持分】			
投資その他の資産	7,640	4,445	3,195	少数株主持分	18	32	△ 13
投資有価証券	2,186	1,824	362	【資本の部】			
長期貸付金	3,760	1,058	2,701	資本金	5,667	2,288	3,378
破産更正等債権	278	280	△ 2	資本剰余金	6,593	3,215	3,378
差入保証金	783	727	56	利益剰余金	5,284	3,876	1,408
繰延税金資産	94	66	27	株式等評価差額金	772	750	22
その他	822	759	62	自己株式	△ 0	△ 0	－
貸倒引当金	△ 284	△ 271	△ 12	資本合計	18,316	10,130	8,186
資産合計	64,435	47,410	17,025	負債・少数株主持分及び資本合計	64,435	47,410	17,025

- 1受取手形及び売掛金、たな卸資産
- メディカルサプライ事業において院外SPDシステムの受注先の増加に伴い、たな卸資産が9億42百万円増加し、また大型案件の売上計上が期末に集中したこと及び売上高増加に伴い受取手形及び売掛金が71億84百万円増加しました。これらが流動資産の主な増加要因です。
- 2建物及び構築物、賃貸土地、長期貸付金
- 前期に引き続きヘルスケア事業におけるライフケア部門の施設等に関して、建物及び構築物が前期に比べ31億81百万円の増加、賃貸用資産建設用地取得による賃貸土地が18億96百万円の増加、また病院向け等の長期貸付金が27億1百万円の増加となりました。これらが固定資産の主な増加要因です。

- 3有利子負債
- 前期に引き続いての、病院再生事業のスキームの一環として一時的に調達した借入金の増加、ヘルスケア事業におけるライフケア部門の施設建築資金等に関わる長期借入金の増加などにより、当期末の有利子負債（短期借入金＋一年以内返済予定長期借入金＋社債＋長期借入金）は前期末に比べ30億65百万円の増加となりました。

- 4資本合計
- 公募増資等により資本金及び資本剰余金は67億56百万円増加し、また利益剰余金が14億8百万円増加したこと等により、当期末の資本合計（株主資本）は前期末に比べ81億86百万円の増加となりました。

連結損益計算書				(単位：百万円)			
	当 期 (2005年4月 1日～ 2005年3月31 日)	前 期 (2004年4月 1日～ 2005年3月31 日)	前期比 増減額		当 期 (2005年4月 1日～ 2005年3月31 日)	前 期 (2004年4月 1日～ 2005年3月31 日)	前期比 増減額
売上高	62,229	52,860	9,369	売上原価	54,388	45,508	8,879
売上総利益	7,841	7,352	489	販売費及び一般管理費	4,611	4,638	△ 26
営業利益	3,229	2,713	515	営業外収益	501	253	248
営業外費用	404	451	△ 47	経常利益	3,327	2,515	811
特別利益	1	95	△ 94	特別損失	9	117	△ 107
税金等調整前当期純利益	3,318	2,493	824	法人税、住民税及び事業税	1,821	1,031	789
法人税、住民税及び事業税	1,821	1,031	789	過年度法人税等	－	34	△ 34
過年度法人税等	－	34	△ 34	法人税等調整額	△ 181	126	△ 308
少数株主損失	16	5	11	当期純利益	1,696	1,305	390

- 5売上総利益
- 事業規模の拡大や受注プロジェクトの大型化等により売上原価が増加し、売上総利益率は前期比13ポイント減の12.6%となりました。
- 6営業利益
- 業容拡大の中、販管費を前期よりも26百万円削減することができ、営業利益は19.0%増の32億29百万円、営業利益率は0.1ポイントアップの5.2%となりました。
- 7当期純利益
- 売上拡大と収益性の一層の向上に加えて、固定資産売却・売却損が前期末よりも1億14百万円減少したことなどにより、当期純利益は29.9%増の16億96百万円、当期純利益率は0.2ポイントアップの2.7%となりました。

- 8営業活動によるキャッシュ・フロー
- 大幅な増益に伴い税金等調整前当期純利益を33億18百万円計上しましたが、事業拡大に伴い前期よりも売上債権が42億84百万円増加し、たな卸資産が8億2百万円の増加となったことなどにより、営業活動によるキャッシュ・フローは前期に比べ72億48百万円の減少となりました。

連結剰余金計算書				(単位：百万円)			
	当 期 (2005年4月 1日～ 2005年3月31 日)	前 期 (2004年4月 1日～ 2005年3月31 日)	前期比 増減額		当 期 (2005年4月 1日～ 2005年3月31 日)	前 期 (2004年4月 1日～ 2005年3月31 日)	前期比 増減額
【資本剰余金の部】				【資本剰余金の部】			
資本剰余金期首残高	3,215	299	2,915	資本剰余金期首残高	3,215	299	2,915
資本剰余金増加高	3,378	2,915	462	資本剰余金増加高	3,378	2,915	462
増資による新株式の発行	3,378	2,915	462	増資による新株式の発行	3,378	2,915	462
資本剰余金期末残高	6,593	3,215	3,378	資本剰余金期末残高	6,593	3,215	3,378
【利益剰余金の部】				【利益剰余金の部】			
利益剰余金期首残高	3,876	2,677	1,199	利益剰余金期首残高	3,876	2,677	1,199
利益剰余金増加高	1,696	1,306	389	利益剰余金増加高	1,696	1,306	389
連結範囲変に伴う利益剰余金増加高	－	0	△ 0	連結範囲変に伴う利益剰余金増加高	－	0	△ 0
当期純利益	1,696	1,305	389	当期純利益	1,696	1,305	389
利益剰余金減少高	287	107	180	利益剰余金減少高	287	107	180
配当金	258	83	175	配当金	258	83	175
役員賞与	29	23	5	役員賞与	29	23	5
利益剰余金期末残高	5,284	3,876	1,408	利益剰余金期末残高	5,284	3,876	1,408

連結キャッシュ・フロー計算書				(単位：百万円)			
	当 期 (2005年4月 1日～ 2005年3月31 日)	前 期 (2004年4月 1日～ 2005年3月31 日)	前期比 増減額		当 期 (2005年4月 1日～ 2005年3月31 日)	前 期 (2004年4月 1日～ 2005年3月31 日)	前期比 増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 979	6,269	△ 7,248	営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 979	6,269	△ 7,248
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 8,979	△ 1,032	△ 7,946	投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 8,979	△ 1,032	△ 7,946
財務活動によるキャッシュ・フロー	10,323	2,605	7,717	財務活動によるキャッシュ・フロー	10,323	2,605	7,717
現金及び現金同等物に係る換算差額	－	0	△ 0	現金及び現金同等物に係る換算差額	－	0	△ 0
現金及び現金同等物の増加(△減少)額	364	7,842	△ 7,478	現金及び現金同等物の増加(△減少)額	364	7,842	△ 7,478
現金及び現金同等物の期首残高	10,193	2,370	7,822	現金及び現金同等物の期首残高	10,193	2,370	7,822
連結範囲変更に伴う現金及び現金同等物の減少額	－	△ 19	19	連結範囲変更に伴う現金及び現金同等物の減少額	－	△ 19	19
現金及び現金同等物の期末残高	10,558	10,193	364	現金及び現金同等物の期末残高	10,558	10,193	364

- 9現金及び現金同等物の期末残高
- 営業活動によるキャッシュ・フロー（CF）はマイナス9億79百万円となり、投資活動CFは主に有形固定資産の取得による支出増などによりマイナス89億79百万円となりましたが、財務活動CFは長期借入による収入および株式の発行による収入の増加などによりプラス103億23百万円となった結果、当期末における現金及び現金同等物の残高は前期末に比べ3億64百万円増加しました。

単体要約財務諸表

単体要約貸借対照表				(単位：百万円)			
	当 期 20 06年3月31 日現在	前 期 20 05年3月31 日現在	前期比 増減 額		当 期 20 06年 3月31 日現在	前 期 20 05年3月31 日現在	前期比 増減 額
【資産の部】				【負債の部】			
流動資産	30,021	22,949	7,072	流動負債	23,813	18,181	5,631
固定資産	13,810	8,321	5,489	固定負債	1,595	2,851	△ 1,255
有形固定資産	1,687	1,029	657	負債合計	25,409	21,033	4,376
無形固定資産	62	54	8	【資本の部】			
投資その他の資産	12,060	7,237	4,822	資本合計	18,423	10,238	8,185
資産合計	43,832	31,271	12,561	負債及び資本合計	43,832	31,271	12,561

単体要約損益計算書				(単位：百万円)			
	当 期 (2005年4月 1日～ 2006年3月31日)	前 期 (2004年4月 1日～ 2005年3月31日)	前期比 増減 額		当 期 (2005年4月 1日～ 2006年3月31日)	前 期 (2004年4月 1日～ 2005年3月31日)	前期比 増減 額
売上高	41,580	33,420	8,159	当期末処分利益	1,800,584	1,001,691	798,893
売上原価	36,676	29,915	6,760	これを次のとおり処分いたします。			
販売費及び一般管理費	2,163	1,987	176	利益配当金	334,012	258,311	75,701
営業利益	2,740	1,517	1,222	役員賞与金	37,000	29,600	7,400
営業外損益	228	233	△ 5	(うち監査役賞与金)	(3,700)	(3,600)	(100)
経常利益	2,969	1,751	1,217	別途積立金	1,415,000	700,010	714,990
特別損益	△ 1	△ 2	1	次期繰延利益	14,572	13,770	801
当期純利益	1,738	990	747				

株主還元方針と当期の配当金

当社グループは、株主の皆様に対する利益還元を経営上の最重要課題と位置づけております。またその基本方針といたしましては、将来の事業展開と経営基盤の強化のために必要な内部留保資金を確保しつつ、「安定的かつ継続的に業績の成長に見合った成果の配分をすること」としております。このため、各期の連結業績を総合的に勘案しつつではありますが、中期的には連結配当性向20%を目標配当水準として長期的に安定した配当の継続を目指していきたいと考えております。

以上のような考えの下、当期の配当金は、株主の皆様への利益還元重視の姿勢をより明確にするために、1株当たりの期末配当を1,000円とさせていただきます。

会社情報および株式関連情報 (2006年3月31日現在)

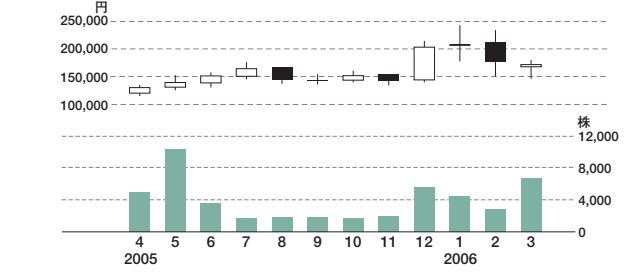
会社概要

商 号 ●グリーンホスピタルサプライ株式会社
設 立 ●1992年8月
代表取締役社長 ●古川 國久
資 本 金 ●56億6,708万円
決 算 月 ●3月
従 業 員 数 ●連結 620名／単体 143名
本 社 所 在 地 ●〒565-0853 大阪府吹田市春日3丁目20番8号
TEL：06-6369-0092(代)
FAX：06-6369-3191
事 業 所 ●大阪、東京、広島

大株主

	所有株式数	所有割合
古川 國久	34,285株	10.3%
有限会社コッコー	33,819株	10.1%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	23,010株	6.9%
古川 幸一郎	15,850株	4.8%
従業員持株会	12,164株	3.6%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	11,954株	3.6%
日興シティ信託銀行株式会社(投信口)	9,388株	2.8%
ゴールドマン・サックス・インターナショナル	7,783株	2.3%
日本証券金融株式会社	5,739株	1.7%
資産管理サービス信託銀行株式会社(信託A口)	5,433株	1.6%

株価・出来高の推移



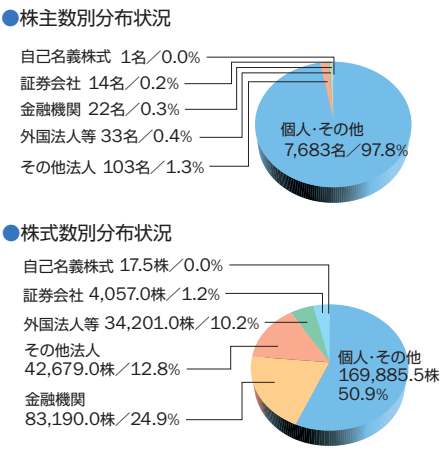
役員

代表取締役社長 ●古川 國久
代表取締役副社長 ●伊藤 忍
専 務 取 締 役 ●小川 宏隆
取 締 役 ●播戸 健
取 締 役 ●小林 宏行
取 締 役 ●沖本 浩一
取 締 役 ●黒田 敏史
取 締 役 ●滝川 博三
取 締 役 ●和田 義昭
常 勤 監 査 役 ●竹原 靖昌
監 査 役 ●水野 昌也
監 査 役 ●細川 信義

株式の状況

会社が発行する株式の総数・・・540,000株
発行済株式の総数・・・334,030株
株主数・・・7,856名

株式分布状況



アンケートのお願い

当社では、株主の皆様からいただいたご意見を誠実に受け止め、今後の経営及びIR活動に活かしてまいりたいと考えております。皆様からの貴重なご意見をお待ちしております。なお、本アンケートを当社ディスクロージャーの充実以外の目的には利用しないことをお約束いたします。

Q1 当社株式をいつ頃ご購入されましたか？

- ① 1ヶ月以内 ② 2～3ヶ月前 ③ 4～5ヶ月前
④ 6ヶ月以上前 ⑤ 株式上場時(2005年2月)

Q2 当社経営に関して、何を重視すべきと思われますか？ (上位3点をお選びください)

- ① ビジネスモデルの強化 ② 経営の効率化
③ 成長性 ④ 収益性 ⑤ 安定性
⑥ 競争力強化へ向けたM&Aの推進
⑦ その他()

Q3 当社のIR活動に関して、何を重視すべきと思われますか？

- ① 事業報告書 ② ホームページ ③ 株主総会
④ 個人投資家向け説明会の開催
⑤ その他()

Q4 当社株式の今後の保有方針等をお教えください。

- ① 中長期に保有する ② 短期で考えている
③ 買い増しする ④ 投資収益に応じて売却する
⑤ 未定

Q5 今回の事業報告書でご興味を持たれた内容は何ですか？

- ① 株主の皆様へ
② トータルパッケージシステム事業の特徴
③ メディカルサプライ事業の特徴
④ ヘルスケア事業の特徴 ⑤ 今後の成長ビジョン
⑥ 「S.H.I.P.理念」の追求・実践 ⑦ トピックス
⑧ 財務ハイライト ⑨ 事業別の概況
⑩ 連結／単体要約財務諸表
⑪ 会社情報および株式関連情報

Q6 今回の事業報告書をどのようにご評価されますか？

- ① 大変満足している ② ある程度満足している
③ 普通 ④ あまり満足していない
⑤ 不満である

Q7 その他、ご意見・ご要望等をご自由にご記入ください。

株主メモ

決 算 期 ● 3月31日

定 時 株 主 総 会 ● 6月中

基 準 日 ● 3月31日

株 券 の 種 類 ● 1株券、5株券、10株券、50株券、100株券

中間配当基準日 ● 9月30日

単 元 株 式 数 ● 1株

株主名簿管理人 ● 大阪市中央区北浜四丁目5番33号

住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所 ● 大阪市中央区北浜四丁目5番33号

住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒183-8701東京都府中市日鋼町1番10

住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) [住所変更等用紙のご請求] ☎ 0120-175-417

[その他のご照会] ☎ 0120-176-417

同 取 次 所 ● 住友信託銀行株式会社 全国各支店

端 株 ● 上記株主名簿管理人がお取扱いいたします。

買取請求取扱場所

※なお、決算公告(貸借対照表及び損益計算書)は下記アドレスに掲載しております。

<http://www.ghs-inc.co.jp/>

お問い合わせ・資料請求等は、下記まで…

グリーンホスピタルサプライ株式会社

〒565-0853 大阪府吹田市 春日3丁目20番8号

TEL.06-6369-0130 FAX.06-6369-3191

URL(ホームページアドレス) <http://www.ghs-inc.co.jp/>